

## 防衛大学校本科第42期及び理工学研究科第33期学生 入校式における防衛大学校長式辞（平成6年4月4日）

本日、防衛大学校本科第42期学生484名、理工学研究科第33期学生75名の諸君を新しく迎え、入校式を挙げるに当たり、山口防衛政務次官<sup>注(1)</sup>をはじめ多数の来賓の御臨席をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。また、全国各地から御臨席をいただきました御両親、御家族の皆様方に対しましても、心からお礼申し上げるとともに、御子女の栄えある入校を衷心よりお祝い申し上げます次第であります。

本科入校の新生諸君、諸君は多数の受験生の中からもめでたく難関を突破し、本日の入校式に参列されました。心からお祝い申し上げますとともに、諸君が自らの意思で祖国日本の防衛に身を挺するの気概を秘めて、この小原台キャンパスの一員となられたことに衷心より敬意を表し、在校の全教職員、全学生とともに、大きな喜びをもって歓迎するものであります。

また、タイ王国及びシンガポール共和国よりの留学生9名の諸君に対しても、それぞれの祖国を離れ本校に学ぶ勇気を讃え、心から歓迎の意を表します。

さて、防衛大学校の教育は、いうまでもなく「幹部自衛官となるべき者を教育訓練する」ことにあります。すなわち、防衛大学校は、将来、陸・海・空各自衛隊において活躍すべき幹部自衛官を育成するために存在しているのであります。この故に、本校の教育は、他の一般大学のそれと共通なものを多く持ちつつも、併せて他の大学には見られない様々の特色を有するのであります。諸君は、この防衛大学校に学ぶ意味を日常生活の中で絶えず問いかけ、決意を新たにしつつ、これからの4年間、大いに研鑽努力せられんことを期待しています。



第6代校長 松本 三郎

---

注(1) 山口那津男

本日の入校に当たり、私は次の三点について諸君に要望致します。

まず第一に、本校建学の理念ともいべき「真の紳士淑女にして、真の武人」についてであります。このことは、将来幹部自衛官となるべき学生として、優れた幹部自衛官を目指して努力することはもちろんであります。同時にまた、一人間として、良き市民、立派な社会人となるべく修練すべきことを強調するものであります。

もとより、将来の幹部自衛官を育成する本校においては、全学生の規律正しい団体行動が学生生活の根幹をなしております。このため諸君は、入校と同時に全員校内の学生舎で4年間の団体生活を送ることになります。この体験は、諸君が、将来多くの部下を指揮統率する幹部自衛官としてふさわしい資質を養成する上で、極めて大切なことでもあります。新入生諸君にとっては、規律ある団体生活を営むということは、これまでの生活環境と異なるところから、当初は戸惑う者がおるかも知れません。しかし、昭和28年の本校創立以来41年間に1万7千人を超える諸君の先輩達は、それを克服して大きく成長してきたのであります。

諸君に期待するのは、素直な気持ちでこの団体生活に飛び込み、その雰囲気にも馴染み、指導教官の指示に従い、上級生の率先垂範を見習い、自らの実践を通じて正しい躰を身につけ、幹部候補生たるにふさわしい容姿、態度の持主となっていきたいということです。また、それと同時に心掛けねばならないのは、これが形式だけに終わっては断じてならないということです。「真の紳士・淑女にして真の武人」への道は、一朝一夕にしてなるものではありません。不断に自らを深め練磨し、一步一步信頼される人物に成長してゆく努力を怠ってはなりません。この4年間の小原台の生活を通じ、裾野の広い、奥行き深い人間形成に努められるよう、諸君の自主積極的な向上心に強く期待しております。

第二に、諸君は学生としての勉学にしっかりと励んでいただきたいと思っております。

先進諸国における今日の士官候補生教育は、一般大学生と同等以上の知的水準の達成をその目標としておりますが、我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会科学系の教育を中軸に、それに更に本校独特の防衛学の教育を加えた充実した学業内容を有しております。防衛大学校の教育方針に「広い視野を開き科学的思考力を養う」とありますが、将来予測される激しい内外情勢の変化に的確に対応できる有能な幹部自衛官となるためには、幅広い学識の上に立つ豊かな創造力と国際感覚の持主でなければ通用しない時代とな

っていることを銘記すべきであります。諸君は、優れた教授陣を擁するこの防衛大学校において、これからの4年間、幹部自衛官としての資質・技能を練磨するとともに、常に「自ら問題を発見し、その解決策を考え、そして考えた結果を実行してみる」という積極的姿勢の下で真剣に学問の研鑽に努め、将来の大成を期していただくことを切望するものであります。

第三に、諸君は体力、気力の錬成に励まねばなりません。幹部自衛官たるには、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、困難な状況下にあつて、冷静な判断力、沈着な行動力、優れた統率力を発揮することができません。一般大学と違い、本校において訓練が特に重視される所以であります。

防衛大学校では、更に教育方針の一つとして学生全員の参加する体育活動を奨励しており、校友会の下に数多くの運動部や文化部があります。諸君はこれらの校友会活動に積極的に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、立派な自衛官としての素地を培っていただきたいと思います。これらの活動を通じ、喜びや悲しみを共にしつつ小原台で流した青春の汗は、必ずや先輩後輩、そして同期生の絆を固め、豊かな人間関係を育くみ、また諸君にとって生涯忘れ難い思い出となるであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。諸君がこの度、特に選抜されて、本校の研究科において、高度の先端科学技術の修得と研究に専念せられる機会を与えられたことを、心からお喜び申し上げます。

御承知のように、現在世界の各国は、競って科学技術の向上を図り、防衛力の近代化に努めておりますが、科学技術の立ち遅れが国家の安全保障に由々しき影響を及ぼすことに思いを致すとき、わが国将来の防衛科学技術の向上は必須の条件であり、諸君の若い頭脳に期待するところ誠に大きいのであります。

今日まで諸君の多くは、第一線における自衛隊の各種部隊、艦船、各機関等にあつて、それぞれ多忙な日常の任務に就かれ、学問の道に遠ざかることを余儀なくされていたことと思ひます。幸いにして諸君は、本研究科において今一度学究生活に入る好機を得られたわけです。過去において履修された基礎を踏まえつつ、未知の領域に挑戦し、創造的姿勢でより高度の科学的研鑽に励まれ、将来の大成の基礎を固められるよう期待しております。

今や桜花爛漫たる春の季節を迎え、青き海原を眼下に収めるこの小原

台上において、祖国防衛という崇高にして重く遥かな使命を担って、第一歩を正に踏み出さんとする諸君の健闘を心より祈り、私の式辞と致します。

諸君、入校おめでとう。